

介護老人保健施設しおさい

症例概要 利用者：90歳代 男性 要介護4

利用期間：令和5年6月～ 訪問リハビリを利用

病名：アルツハイマー型認知症

既往歴：高血圧症 胸腰椎圧迫骨折

経過：認知症の進行とともに徐々に歩かなくなり、令和4年8月ごろから寝たきり生活となる。令和4年10月に介護認定があり、ヘルパーや訪問入浴の利用でなんとか自宅介護していたが、股関節・膝関節の可動域制限で座位がとれず車椅子にも乗れないことに加えて、自宅周囲が階段の多い地形のため外へ出られない状況が続く。ご家族の希望で生活の場を広げるため、令和5年6月より訪問リハビリ開始。

内容

訪問リハビリ開始時、ご本人は既に寝たきりの期間が長くなっており、股関節・膝関節の屈曲制限により座位が取れず、車椅子に乗ることも出来ませんでした。長い階段や狭い路地を通らないと公道へ出られない地域に住んでいることもあり、自宅内だけで介護をするしかなく、ご家族も疲弊した様子でした。ご本人からは「もう一度海を見たい」との希望が聞かれていましたが、難しい状況にありました。

そこで外へ出るための第一歩として、まずは座位姿勢を取れ、車椅子乗車ができるよう可動域制限に対してアプローチしました。3ヶ月程でベッド端座位が取れるようになり、リクライニング機能付きの車椅子に乗車できるようになりました。

車椅子乗車ができたことで外出、そしてショートステイのご利用が現実的になりました。居宅ケアマネを中心として訪問リハOT、しおさい相談員、介護スタッフ、福祉用具業者、そしてご家族が集まってどうしたら家を出られるか、移動方法の検討を行いました。段差は布タンカを使用し、坂道は車椅子を使用し、マンパワーを集めて海岸の公道までお連れするように決めました。ショートステイへの出発当日、ご本人たったの希望であった海岸に降りていくと、足が悪いために坂の上の家まで会いに来ることができなかった弟様が待っていて、1年ぶりの再会を喜び合うこともできました。

8日間にわたるショートステイご利用中は、リハビリスタッフが離床方法について検討・伝達して、離床時間を確保しました。ご自宅にいた頃に比べて少しずつ体力もつき、車椅子乗車に余裕も出てきて、スタッフと一緒に散歩に出て、久しぶりの日光浴と春の景色を楽しみました。

介護を一身に担ってきた主介護者のご家族は、ショートステイご利用の間にやっと自分の受診ができ、ご自身の事に使える時間も増えてきました。

現在、より容易に外出できることを目指して、小型で軽量の車椅子に乗れるように訪問リハビリを継続しています。